平成 24 年度（2012 年度）セタシジミ資源概況調査

石﨑 大介・幡野 真隆

１．目　的

近年、セタシジミの漁獲量は 100 トンを下回っており、セタシジミ資源の現状とその動向を把握し、適正な資源管理や効果的な栽培漁業の推進を行う必要がある。その基礎資料を得るため、1997 年より産卵期前にあたる 5～7 月に実際の漁船漁具を用いて調査を行っている。

２．方　法

2011 年 6 月 1 日に琵琶湖北湖のセタシジミ主要 7 漁場(表 1※)を含む 17 漁場において、実際のシジミ漁業で用いられる貝桁網（開口幅約 140 cm、網目 3 cm）を用いて調査した。調査は毎年同じ漁業者に依頼している。各漁場において 1 分間ないし 2 分間曳網し、採捕したセタシジミの個体数および重量を記録した。主要 7 漁場については全個体の殻長も測定した。そして、GPS の軌跡記録から曳網面積を求め、単位面積あたりの採捕量を計算し、生息密度とした。

３．結　果

主要漁場以外の生息密度は針江、近江舞子の漁場でそれぞれ 2.89、3.39 個体／m^2と高く、菖蒲漁場では採捕されず、新海漁場では 0.02 個体／m^2と低次であり（表 1)、2011 年と同傾向であった。主要漁場の生息密度は平均 1.64 個体／m^2であり 2009 年の 0.51 個体／m^2の 3 倍以上であるが、2011 年より減少した（図 1)。また、殻長 18mm 以上の平均生息密度は 0.36／m^2であった。磯漁場では 3.64 個体／m^2と高い生息密度を維持し、沖島周辺や長浜漁場でも増減はあるものの概ね生息密度を維持している。しかし、松原漁場は 0.29 個体／m^2と極めて低い状況であり、今西漁場は大きく生息密度が低下した（図 2)。平均生息密度は低下したものの、今西以外の各漁場は概ね 2011 年からの生息状況を維持していた。しかし、1997 年から現在までに見られるような変動を繰り返す可能性もあり、今後の資源動向を注視する必要がある。

表1　各調査地点におけるシジミの生息密度

地点	個体数	曳網面積（m^2）	密度（個体/m^2）
菖蒲	0	115	0.00
牧	542	315	1.72
沖島南西※	432	323	1.34
沖島西※	761	317	2.40
沖島東※	285	307	0.93
新海	4	258	0.02
石寺	267	274	0.98
八坂	47	96	0.49
松原※	85	298	0.29
磯※	1004	275	3.65
長浜※	342	225	1.52
今西※	369	268	1.38
海津	161	374	0.43
針江	312	108	2.89
鴨川	212	130	1.64
高島	200	112	1.78
近江舞子	459	135	3.39
平均			1.46

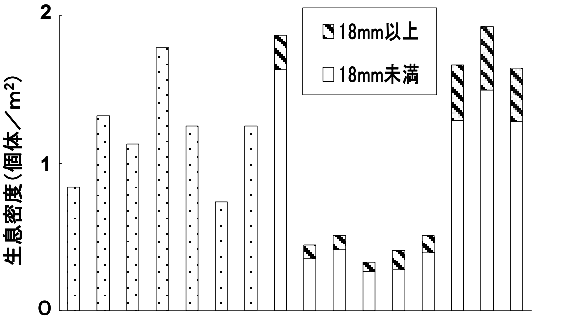

図1　主要漁場における生息密度の推移

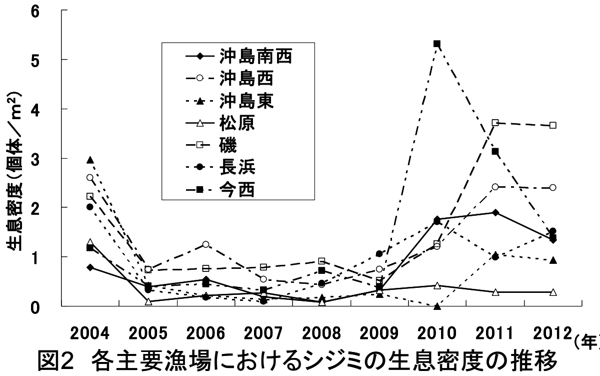

図2　各主要漁場におけるシジミの生息密度の推移

本報告は滋賀県資源管理協議会からの調査委託事業の中で行われた成果の一部である。